

山形在来作物研究会 15周年記念 基調講演者のご紹介 「世界がなぜいま在来作物に注目するのか」 (仮) ～世界の若手研究者が切り拓く在来作物の未来～

予定されておりましたイタリア食科学大学 学長 アンドレア・ピエローニ教授の基調講演は教授の急な体調不良により来日を見送ることになりました。そこでピエローニ教授の研究にも従事し、イタリア食科学大学の卒業生として在来作物研究者として第一線で活躍している若手研究者2名を推薦を受け本研究会の基調講演者として招聘いたしました。2名とも共に長くインドでの在来作物は少数民族の食文化の研究を行っており、ヨーロッパのみならずアジア・アフリカなど幅広い地域を対象に在来作物を研究しており、日本への訪問は初めてとなります。



Annelie Bernhart

アネリー・バーンハート 研究員

ドイツ出身。アグロエコロジー（農業生態学）・アグロバイオダイバーシティ研究者。イタリア食科学大学を卒業後、オックスフォード大学院 Master of Science (MSc), Biodiversity, Conservation and Management, distinctionを卒業。インド北東地域のメガラヤ（Meghalaya）で焼畑農業（swidden）などが政治的・環境的に持続が難しい課題などを特に研究。現在はイギリスの Agroecology Water and Resilience センターとローマの Platform for Agrobiodiversity Research (PAR)へ所属。イタリア食科学大学非常勤講師。



Rachele Ellena

ラケエレ・エレナ 研究員

イタリア出身。民族植物学者。イタリア食科学大学を卒業後、コペンハーゲンの Noma に併設する Nordic Food Lab で食用野生植物を研究 (<http://nordicfoodlab.org/blog/2012/9/wild-edible-plants-an-overview>)。イギリスセント大学院 Master of Science (MSc) Ethnobotany を卒業。インドのメガラヤ（Meghalaya）に2年駐在し、スローフード NESFAS (North East Slow Food and Agrobiodiversity Society) で地域少数民族の文化的保護などを訴求する数々のプロジェクトに携わる。現在はイタリア食科学大学がこれから大規模に予定されているアフリカの植物研究プロジェクトに従事している。

本件に関するお問い合わせ 主催 山形在来作物研究会
協力 株式会社GEN Japan info@gen.education